

教育セミナー4(共催：(株)大塚製薬工場/イーエヌ大塚製薬株式会社)

[ES4-01]Supportive care required for cancer treatment -focusing on oral function & hygiene management and nutrition therapy

○Akira Tanaka¹ (1.Department of Oral and Maxillofacial Surgery, School of Life Dentistry at Niigata, The Nippon Dental University.)

教育セミナー4 ポスター

略歴

1990年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
1994年 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科修了
2012年 日本歯科大学新潟病院 口腔外科 教授
2013年 ベルン大学医学部 頭蓋顎顔面外科学講座 留学
2014年 日本歯科大学新潟生命歯学部 口腔外科学講座 教授
現在に至る

近年、がん治療においては、領域を問わず治療過程で発生する副作用（治療後の合併症、後遺障害を含む）の予防、症状軽減を目的とする支持療法（サポーティブケア：Supportive care）が重要とされ、患者のQOLだけでなく治療完遂率や治療成績、医療費の軽減にも影響することが認知されつつある。各専門科は、自領域のがん治療と並行して、他領域がん治療により生じる専門領域の各種合併症、後遺障害への対応が必要となり、がん治療を行う専門科と複数の支持療法を担当する専門科、医療チームとの強固な協働関係が求められている。全国で普及が進む周術期口腔機能管理により、周術期のSSI、Perioperative pulmonary aspirationに起因する肺炎、化学療法、放射線治療時の口腔粘膜炎の増悪を予防する観点から、歯科のがん治療への関わりが推進されている。

一般的に、がんの支持療法は、疼痛管理や輸血療法、抗がん薬の副作用である骨髄抑制、悪心、嘔吐、下痢などの消化器症状、口腔粘膜炎、皮膚炎、脱毛などへの対応をはじめ、術後のリンパ浮腫、神経症状、精神的サポート等への対応など多岐にわたる。また、食事内容、摂食機能を含む栄養管理は、がん患者の生命予後や免疫機能、創傷治癒に関わる重要な因子とされている。がん治療を行う急性期病院において口腔を管理する歯科医師、口腔外科医は、周術期における口腔機能管理、口腔衛生管理として、感染予防、粘膜炎の増悪抑止、摂食機能の向上において重要な役割を担っている。

口腔癌治療においては、癌の根治的切除や放射線治療に伴い、多くの機能が失われる。組織再建やリハビリテーション技術が向上する一方で、機能再建が不可能な唾液減少に伴う口腔乾燥、口腔の恒常性変化に伴う口腔諸環境や、栄養状態の悪化は、治療効果、患者のQOLに大きな影響を及ぼす。よって、口腔がん治療における口腔機能（衛生）管理は、他領域がんが増して、不可欠で持続的なケアとなる。がん治療のゴールが、がんの根治性、生命予後だけでなく、患者の社会復帰を含むQOLの向上とその維持とされる現代において、口腔機能（衛生）管理と栄養管理は、欠かすことのできないがん治療医のスキルとなった。本講演では、がん治療時に求められる支持療法を、口腔機能（衛生）管理、栄養療法を中心に解説したい。